

視察成果報告書

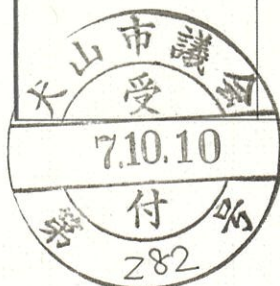
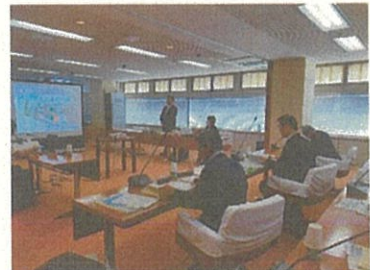
令和 7 年 10 月 10 日

犬山市議会
議長 大沢 秀教 様

議員名 小川 清美

下記のとおり、先進地視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和 7 年 10 月 7 日 (火) ～令和 7 年 10 月 8 日 (水) (1 泊 2 日)
(2) 視 察 地	東京都武蔵野市 (1 日目) 静岡県掛川市 (2 日目)
(3) 視察の種類	常任委員会 (総務委員会先進地視察研修)
(4) 視察成果	▼東京都武蔵野市 (於; 武蔵野市役所) 内容; 地域公共交通 (ムーバス等) について 対応; 都市整備部交通企画課 (1) 概況 人口は約148,000人であるが、市域面積は当市と比べ7分の1の10.98km²であり、人口密度が高い市であるが、全国住みやすさランキングでは、毎年10位以内に入る状況にある。 市内には鉄道駅が3駅あり、このうち2駅 (吉祥寺駅、三鷹駅) には、東京メトロ東西線が乗り入れており、主に民間バス事業者3社が3駅から放射状に路線バスを運行しており、人の往来はかなりある地域となっている。 (2) レクチャー (コミュニティバス＝ムーバスについて) ・30年ほど前から交通問題がクローズアップされ始めたため、平成7年からムーバスを開始 (約30年経過) ・現在はコミバス利用者年間270万人 (1日当たり7,200人) で、買い物に利用する方が一番多い。 ・利用客数はかなりあるものの、運行するためには、年間1億円ほど (R6年1億2,000万円) 市から支出を行っている。 ○現料金100円を値上げし運行に充てるという考え方や議員からも意見がでていますが、より多くの市民



に活用していただくことやシンプルな料金体系となっているため、値上げは考えていない。

※民間バス会社からも値上げの意見はあるものの、コミバスと民間路線との棲み分けができていると考えている。

○100円は低価格であるものの、一方で多くの市民が手軽に利用し、高齢者の移動を手助けするなど、フレイル予防効果や経済振興・医療・福祉・介護・教育・環境・エネルギー等々多面的な効果（＝クロスセクター効果）があるということも忘れてはならない。

- ・民間路線との棲み分け→ 駅、バス停から300mを超える地域を交通空白地域と捉え、この地域を埋める為にコミバス（ムーバス）を運行

- ・コンセプトとして、「まちづくりに貢献するムーバス」を追加したいと考えており、現在協議、検討中

- ・いつどこで何人乗車したかは判るが、どこで降車したかは一切判らないため、アンケート調査などで、おおまかに補完し、市民の声を運行等に活かしている。

- ・その他

放置自転車対策を実施しており、この30年間で大幅に減った。

約 5,000台 → 約 30台

パーク&バスライド事業も展開している。

武蔵野市は、概ね6 km×3 kmと狭いため、若者なら自転車移動で十分な処



▼東京都武蔵野消防署

内容； 消防庁舎施設見学

対応； 東京消防庁武蔵野消防署
(本署)

- ・地下1階地上2階建ての庁舎で、隊員の居住空間は地下に設置している。

利点→出動の際、3階から1階に2フロアー降りるより、1フロアー上に移動した方が時間短縮できる。

- ・隊員の訓練施設（棟）が併設され、かなりの音が出ていたものの、



近隣住民との取り決めがされているため、トラブルは無い。

- ・武蔵野消防署は、広域行政の東京消防庁として、各市町からの支出により運営。したがって職員の身分は都庁の職員となっている。稲城市は、広域に参加していない自治体。
- ・消防団は、それぞれの地方自治体の組織であり、連携して活動に当たっている。

▼静岡県掛川市

内容； 働き方改革について

対応； 総務部人事課（前嶋係長、縣主任）

中村議会事務局長

(1) 概況

掛川市は、静岡市と浜松市の間に位置する人口約11.5万人、市域面積約 265.7 km²の自治体。平成17年合併。

市内にはかつて、掛川城、横須賀城、高天神城の3城が築かれていた。このうち掛川城は平成6年に日本初の本格木造天守閣として復元されたもの。

また、全国初の「生涯学習のまちづくり」に取り組んだ自治体



(2) レクチャー（働き方改革について）

- ・働き方改革2.0は、全庁改革プロジェクトとして令和4年始動。コミュニケーション・DX・働き方、働き甲斐を以って職員の力を最大限に引き出し、市民に満足を感じてもらう。
- ・職場に対する愛着や思い入れ（＝エンゲージメント）に注目し、今後の人口減少時代に対応（仕組みから改革する必要がある。）
- ・掛川市は、職員のエンゲージメントを定義づけしている。

職員の一人ひとりが自分の仕事に誇りと情熱を持ち、市の今と未来に貢献していると実感しながら、市民の幸せのためにチャレンジしている状態

・今後の取り組み

- タウンホールミーティング
市3役を交えた職員ミーティングの実施
- 1on1（ワン・オン・ワン）ミーティング

(5) 犬山市に対する提言

【武蔵野市地域公共交通について】

- 当市のように市域が広く、タクシーや民間バスも期待できない状況の中で、コミバスの路線やバス停といった物理的な操作により利用と乗降数増加を目指すばかりでなく、フレイル予防効果やクロスセクター効果があることをもっと前面に出して宣伝をすべきと考えます。
- 当市は犬山駅と中央病院を乗り換え拠点として運行しているため、一路線の距離が延び、運行時間に影響を与えている。比較的電車の運行がある羽黒駅、楽田駅を核として鉄道併用型のコミバス運行形態とすることも検討する価値はあると考えます。

【東京消防庁武蔵野消防署施設見学】

- ドライエリアをしっかりと設け、また、換気、採光と大雨時の浸水対策を考慮できれば、隊員の居住空間を地下に設けることも検討すべきと考えます。（工事費は多少↑）
- 隊員の訓練施設は、多種多様な中からの的確に選択すべきと思います。

【掛川市の働き方改革について】

- 働き方改革の一つとして、当市においても「電子決済」システムを早期に導入すべき。また、すべてを電子化するのではなく、図面や冊子、或いは種類によっては従来どおりの方法を併用したハイブリット型を提案します。
※これにより、相当な事務軽減が可能



掛川市議場にて